



2019年度第1四半期 決算概況

2019年8月5日

株式会社J-オイルミルズ

問い合わせ先：

CSR・IR部 Tel.03-5148-7101



Agenda

- 1 2019年度1Q 決算概況
- 2 成長戦略
- 3 2019年度通期 見通し
- 4 トピックス
- 5 参考資料

2019年度1Q 連結業績概要

単位：億円

	2017年度 1Q	2018年度 1Q	2019年度 1Q	対前年 増減率	2019年度 通期予想	進捗率
売上高	467.6	471.2	459.0	▲2.6%	1,900.0	24.2%
営業利益	8.7	18.5	19.0	+3.1%	65.0	29.3%
経常利益	10.7	20.0	20.8	+3.7%	69.0	30.1%
当期純利益(※)	7.1	18.3	18.1	▲1.2%	54.0	33.5%

※親会社株主に帰属する当期純利益

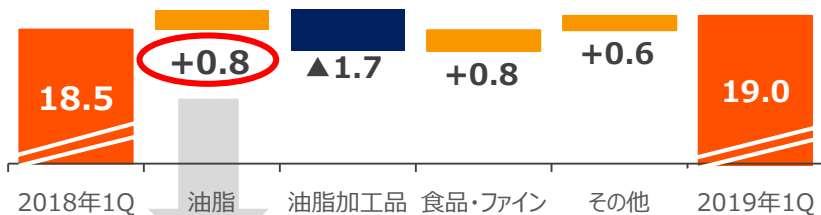
● 決算のポイント

- 高付加価値品は拡大したものの、ミール価格の下落、油脂販売単価の下落等により減収
- 原料相場の下落を受けた原料調達コストの良化による油脂の採算性の向上
- 油脂加工品事業の採算性の悪化
- 18年度台風被害を対象とした受取保険金の計上、+6.4億円（特別利益）
- 「から揚げの日の油」の自主回収に伴う製品回収関連損失の計上、▲1.2億円（特別損失）
- 2018年第1四半期：繰延税金資産の計上による影響、+2.3億円

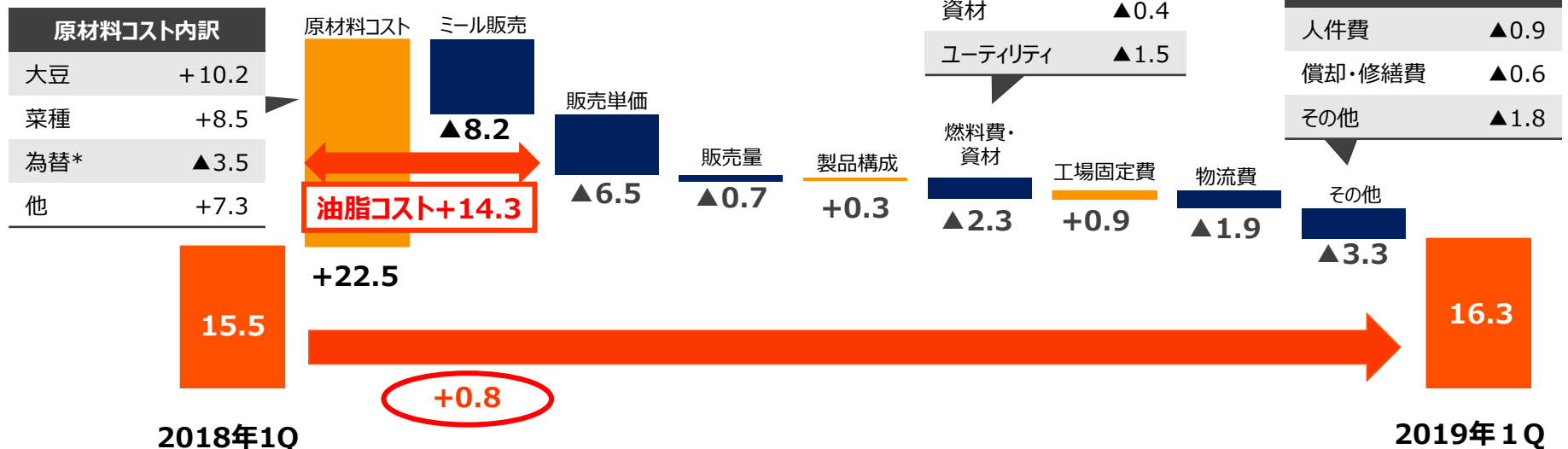
2019年度1Q 営業利益増減分析 (対前年)

【セグメント別営業利益 増減】

単位：億円



【油脂事業 営業利益増減分析】



- 油脂コストの良化（原料相場の下落による原材料コスト低減分が、ミール価格の下落分をカバー）
- 油脂の販売単価（2019年6月出荷分より価格改定を実施、改定効果は2Q以降へ見込む）
- 「長調得徳」、オリーブオイル販売好調による製品構成の改善
- 物流費、燃料費・資材、人件費の上昇

*為替・・・18年度1Q:108.3円/1ドル、19年度1Q・・・110.1円/1ドル

2019年度1Q セグメント業績概要

- 前年比：食品・ファイン事業のみ増収、油脂事業、食品・ファイン事業で増益
- 予想比：売上高について食品・ファイン事業で遅れはあるが、油脂事業、油脂加工品事業はおおむね計画通り
営業利益は油脂加工品事業を除き、油脂事業、食品・ファイン事業は順調に推移
- 油脂加工品事業は、原材料高騰と委託加工費の上昇により採算悪化
- その他事業は、2018年度1Qにおいて健康食品撤退の影響で、営業利益は僅少

単位：億円

売上高	2017年1Q	2018年1Q	2019年1Q	対前年 増減率	2019年度 通期予想	進捗率
油脂	398.0	400.2	388.3	▲3.0%	1,600.0	24.3%
油脂加工品	32.4	32.9	32.4	▲1.7%	134.0	24.2%
食品・ファイン	32.7	34.1	34.6	+1.4%	153.0	22.6%
その他	4.5	3.9	3.7	▲5.7%	13.0	28.6%
連結	467.6	471.2	459.0	▲2.6%	1,900.0	24.2%

営業利益	2017年1Q	2018年1Q	2019年1Q	対前年 増減率	2019年度 通期予想	進捗率
油脂	6.0	15.5	16.3	+5.3%	53.0	30.7%
油脂加工品	0.9	1.3	▲0.4	-	3.0	-
食品・ファイン	1.3	1.6	2.5	+52.2%	7.0	35.2%
その他	0.5	0.1	0.7	+829.2%	2.0	33.6%
連結	8.7	18.5	19.0	+3.1%	65.0	29.3%

セグメント別業績：油脂事業

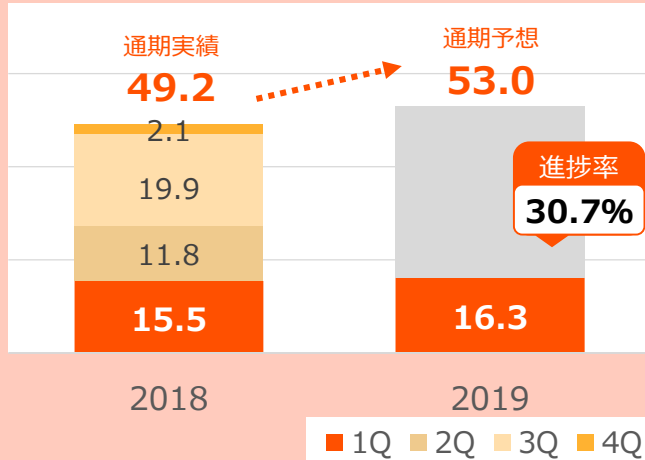


主要な事業内容

- 家庭用油脂・業務用油脂・ミール

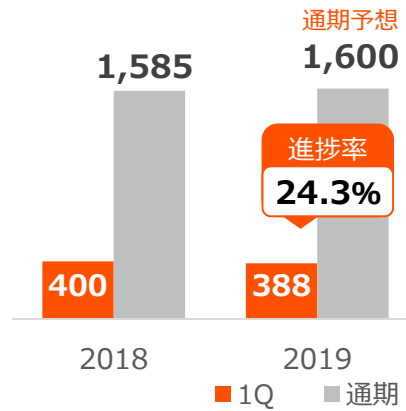
<営業利益推移>

単位：億円



<売上高推移>

単位：億円



<2019年1Q 売上高構成比>



- 高付加価値品の拡大
- 原料価格下落によるコスト負担減
- ミール価格の下落によるミール販売悪化

単位：億円

	営業利益	前年比		
		価格	物量	原材料他
家庭用油脂		▲ 1.6	+ 0.2	
業務用油脂		▲ 4.9	▲ 0.6	
ミール類		▲ 8.6	+ 0.4	
合計	+ 0.8	▲ 15.1	+ 0.1	+ 15.9

セグメント別業績：油脂加工品事業

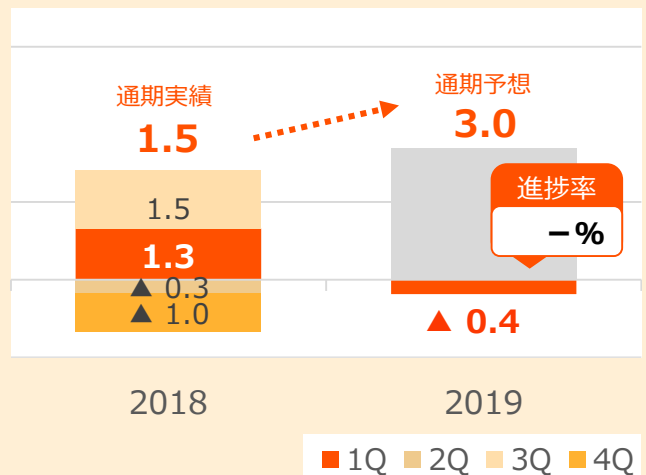


主要な事業内容

- マーガリン・粉末油脂

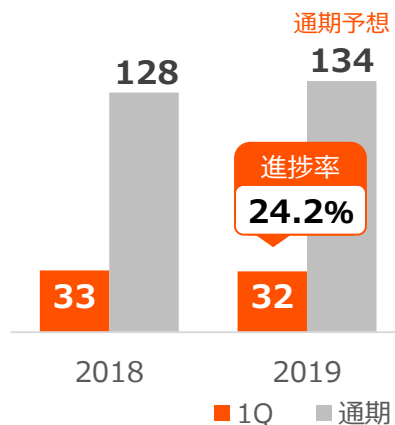
<営業利益推移>

単位：億円

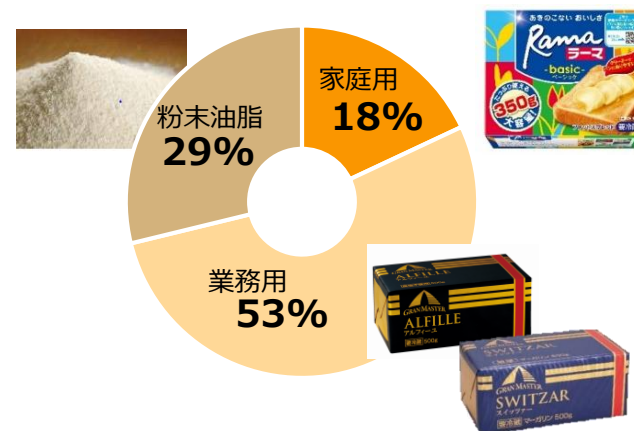


<売上高推移>

単位：億円



<2019年1Q 売上高構成比>



- マーガリン: 原材料費高騰、委託加工費の上昇
- 粉末油脂: 販売量増加による良化

単位：億円

	営業利益	前年比		
		価格	物量	原材料他
家庭用マーガリン		▲ 0.0	▲ 0.0	
業務用マーガリン		▲ 0.3	▲ 0.3	
粉末油脂		+ 0.1	+ 0.1	
合計	▲ 1.7	▲ 0.2	▲ 0.2	▲ 1.2

セグメント別業績：食品・ファイン事業

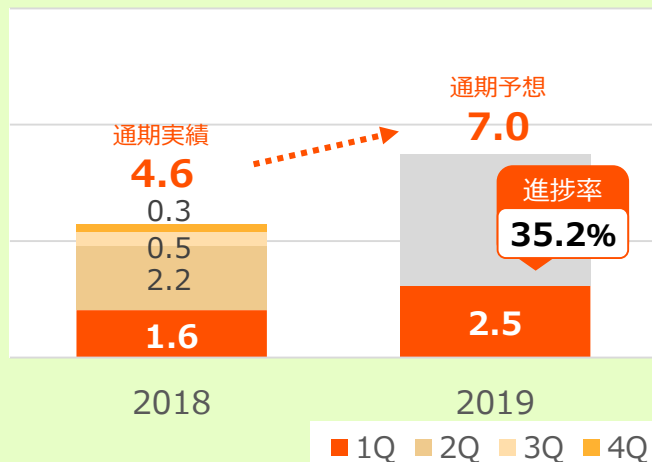


主要な事業内容

- スターチ・ファイン・ケミカル

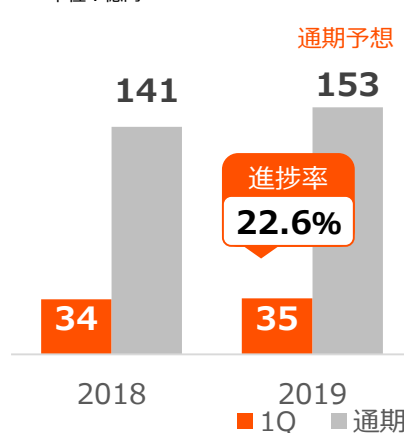
<営業利益推移>

単位：億円

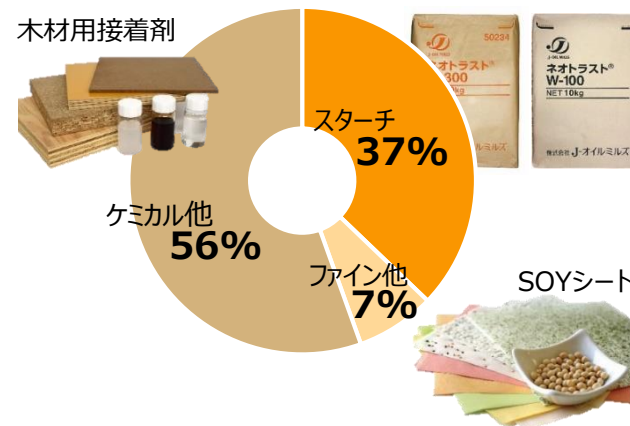


<売上高推移>

単位：億円



<2019年1Q 売上高構成比>



- スターチ:価格改定効果、一部採用の遅れによる販売量減少
- SOYシート:米国を中心とする海外で高評価、需要拡大による好調
- ケミカル:価格改定の遅れ、物流費の増加

単位：億円

	営業利益	前年比		
		価格	物量	原材料他
スターチ		+ 0.4	▲ 0.0	
ファイン		+ 0.2	+ 0.1	
ケミカル他		▲ 0.5	+ 0.1	
合計	+ 0.8	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.5

2019年度1Q貸借対照表

単位：億円

	19/3期	19/6期	増減		19/3期	19/6期	増減
流動資産	709	755	47	負債	608	639	31
現預金	24	32	7	仕入債務	127	166	39
売上債権	370	370	1	有利子負債	215	218	3
棚卸資産	288	321	33	引当金	46	41	-5
その他	27	33	5	その他	220	214	-6
固定資産/繰延資産	768	757	-11	純資産	869	873	4
有形・無形資産	607	603	-4	株主資本	823	833	11
投資その他	161	154	-7	包括利益他	46	40	-6
資産計	1,477	1,512	36	負債・純資産計	1,477	1,512	36

● 棚卸資産の増加、仕入債務の増加・・・輸入原料在庫の増加



Agenda

- 1 2019年度1Q 決算概況
- 2 成長戦略
- 3 2019年度通期 見通し
- 4 トピックス
- 5 参考資料

2019年度～2020年度基本方針

事業戦略

成長戦略

1. 高付加価値品拡大
2. ソリューション事業事例創出・展開加速
3. アセアン事業の飛躍的成長
4. 汎用油脂製品の収益力強化



構造改革

1. 新物流システム稼働
2. 中長期視点での生産拠点の最適化検討
川上から川下領域への投下資源シフト
3. SKU、業務の選択と集中へ

経営基盤強化

企業ビジョン体系策定・浸透、組織風土改革

成長戦略：2019年度1Q 重点施策—高付加価値品の拡大—

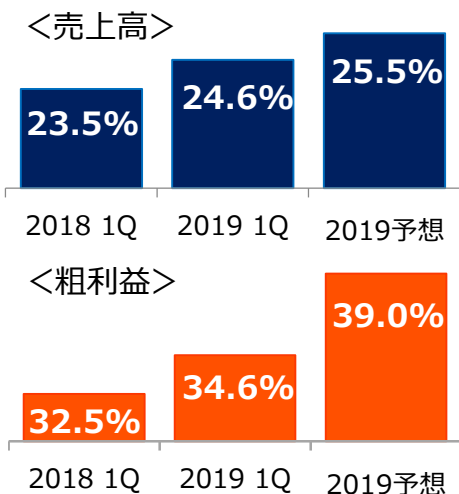
● 19年度進捗状況

単位：億円

	2018年度 1Q	2019年度 1Q	対前年 増減率	2019年度 通期予想	進捗率
売上高	110.9	112.7	+1.7%	485.0	23.2%
粗利益	27.7	31.6	+14.1%	139.1	22.8%
粗利益率	25.0%	28.1%	-	28.7%	-

- 「長調得徳」の販売好調
- オリーブオイル販売好調と原料価格低下による寄与
- 「から揚げの日の油」回収による影響
販売再開からのオーダーは回復基調
- 「SOYシート」の販売好調

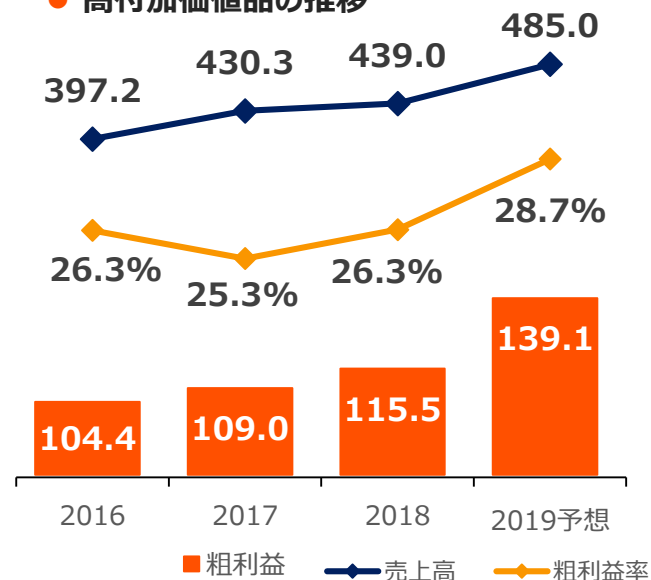
● 連結全体構成比



● 2019年1Q売上高構成比



● 高付加価値品の推移





Agenda

- 1 2019年度1Q 決算概況
- 2 成長戦略
- 3 2019年度通期 見通し
- 4 トピックス
- 5 参考資料

2019年度損益予想（期初予想を据え置き）

単位：億円

	実績			通期予想	
	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	対前年 増減率
売上高	1,802.3	1,833.6	1,867.8	1,900.0	+1.7%
営業利益	54.7	40.1	56.6	65.0	+14.8%
経常利益	58.3	51.4	63.3	69.0	+9.1%
当期純利益(※)	32.6	41.3	47.5	54.0	+13.7%

※親会社株主に帰属する当期純利益

● 2019年度の取り組み

売上高・売上総利益

- 物流等インフラコストならびに油脂コストの上昇に併せた価格改定、高付加価値品の一層の拡大
- 油脂加工品事業、食品・ファイン事業の収益力向上

営業利益・経常利益 当期純利益

- 中期の成長を見据えた高付加価値品、海外事業等への積極的投資、物流費・資材費が上昇する中、コストコントロールの一層の追求
- 構造改革の継続的な検討・推進
- 資産効率の改善

主な経営指標

- ROEおよびEPSは前倒しで2020年度目標値を達成、2019年度は10円の増配を計画

(億円)

	2015年度 実績	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 予想	2020年度 目標	年平均 成長率
売上高	1,873	1,802	1,834	1,868	1,900	2,150以上	+5%
売上総利益	294	328	303	348	-	-	-
営業利益	46	55	40	57	65	80以上	+10%
営業利益率 (%)	2.5%	3.0%	2.2%	3.0%	3.4%	3.5%以上	-
EBITDA	88	98	89	106	116	140以上	-
当期純利益	30	33	41	47	54	-	-
ROA (%)	1.9%	2.0%	2.6%	3.2%	3.7%	4.0%	-
ROE (%)	3.7%	4.0%	4.9%	5.6%	6.1%	5.0%以上	-
EPS (円) ※	178.7	195.9	249.5	288.6	328.1	300以上	-
D/Eレシオ	0.40	0.47	0.42	0.30	0.28	0.50	-
フリーC/F	44.8	△42.3	28.1	104.5	-	-	-
CCC (日)	109.6日	117.4日	116.6日	112.3日	-	-	-
一株当り配当額(円)※	90	90	90	90	100	-	-
配当性向	50.4%	45.9%	36.1%	31.2%	30.5%	30%以上	-

※株式併合換算後



Agenda

- 1 2019年度1Q 決算概況
- 2 成長戦略
- 3 2019年度通期 見通し
- 4 トピックス
- 5 参考資料

国土交通省提唱の「ホワイト物流」推進運動に自主行動宣言を提出

- 国民生活や産業活動に必要な物流の持続的な確保を目指し6月5日に「自主行動宣言」を提出



「ホワイト物流」推進運動ポータルサイト (<https://white-logistics-movement.jp/>)

自主行動宣言の取り組み項目一覧

- ① 物流の改善提案と協力
- ② リードタイムの延長
- ③ 運転以外の作業部分の分離
- ④ 幹線輸送部分と集荷配送部分の分離
- ⑤ 船舶や鉄道へのモーダルシフト
- ⑥ パレット等の活用

➤ これまでの取り組み

- ・外装表示の統一化
- ・神戸・若松工場間輸送のモーダルシフト化（2015年エコシップマーク認定）
- ・長時間運行や夜間の仕分業務の要因となっていた長距離スルー配送を見直し、仙台ストックポイントの拡充、久喜・小牧ストックポイントを開設 等

- これまでの取り組みを継続しつつ、持続可能な安定した物流確保と生産性向上の取り組みを進める



トピックス：新商品

家庭用油脂製品（2019年8月下旬～）



「AJINOMOTO. えごま油」

- えごまの種子を搾ったn-3系脂肪酸（オメガ3脂肪酸）たっぷりの油
- 太田油脂株式会社との共同開発



「AJINOMOTO. アマニ油」

- アマの種子を搾ったn-3系脂肪酸（オメガ3脂肪酸）たっぷりの油
- 太田油脂株式会社との共同開発



「AJINOMOTO. 軽くてあっさりしたオリーブオイル」

- 軽くてあっさりした風味で、クセのない100%オリーブオイル
- 炒め物や生食から、揚げ物、和食まで、いつもの油と同じように使用可能

家庭用マーガリン製品（2019年8月下旬～）



「ラーマ®ソフト こめ油入り」

- 原料油脂中30%こめ油を配合した、バター風味のファットスプレッド。
- クセがなくあっさりとした風味

業務用油脂製品（2019年9月～）

「ごはんのための米油(炊飯油)」



- 米の一粒一粒を油でコーティングすることで保水力が高まり、ふっくら粒感が良い硬めのご飯をおいしく炊飯
- 米の粒割れを防ぐことで、米同士がくつきにくく、釜離れしやすくなり、食品ロスの低減と作業効率が向上



「長調得徳® ヘルシータイプ」

- 「長調得徳®」シリーズ共通の、当社独自製法「TEE UP® 製法PLUS+」により、通常のサラダ油と比べて酸価の上昇、油の着色、劣化した油の加熱時の臭いを抑制
- 当社独自製法「ヘルシー＆ライトテイスト製法（特許出願中）」により、揚げ物の衣の吸油率を抑え、カロリーカットと同時に揚げ物の油っぽさを抑制



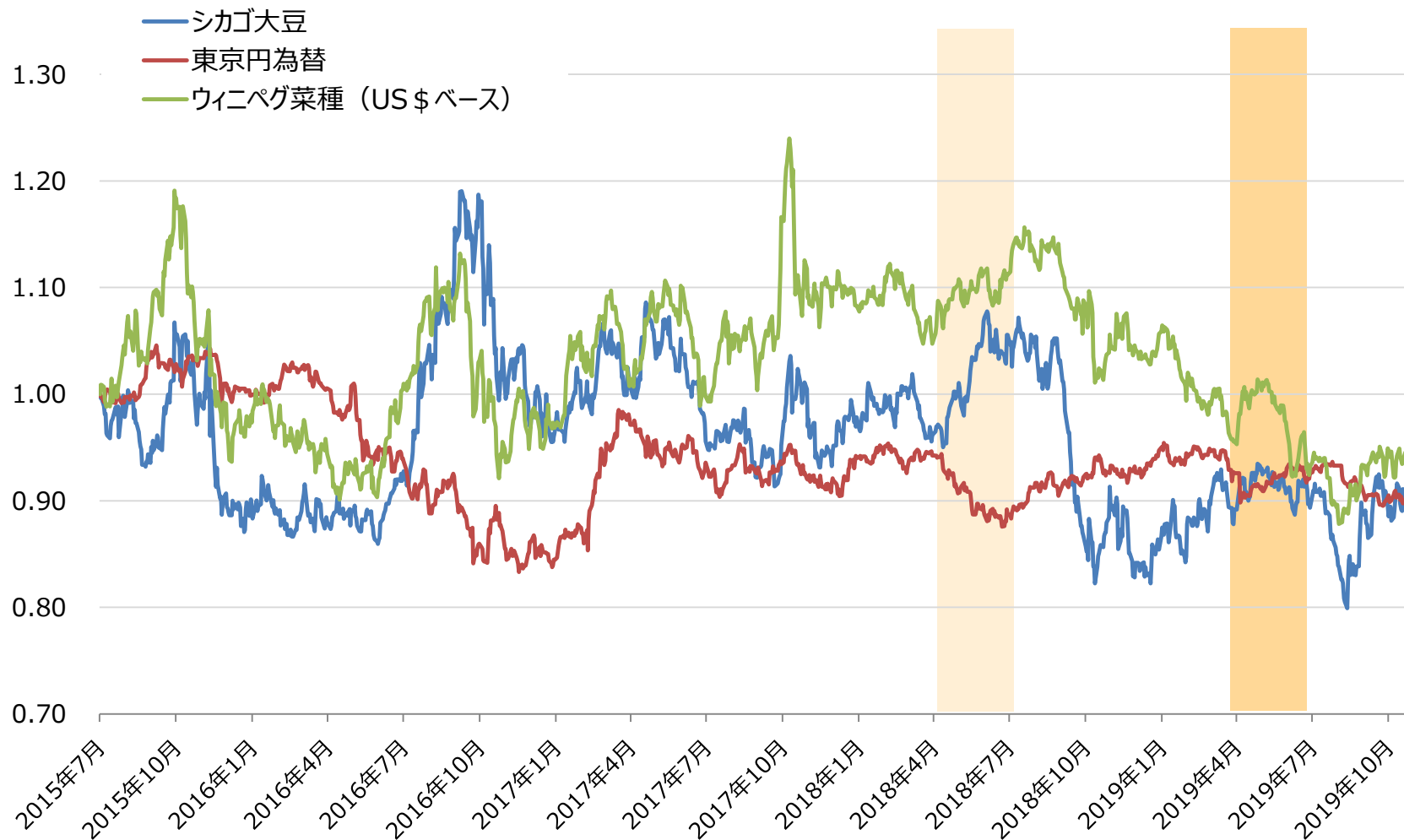
Agenda

- 1 2019年度1Q 決算概況
- 2 成長戦略
- 3 2019年度通期 見通し
- 4 トピックス
- 5 参考資料

大豆、菜種、為替(米ドル)の相場動向

* 原料調達状況に近づけるため、相場データを3ヶ月ずらして表示(2015年4月を1とする)

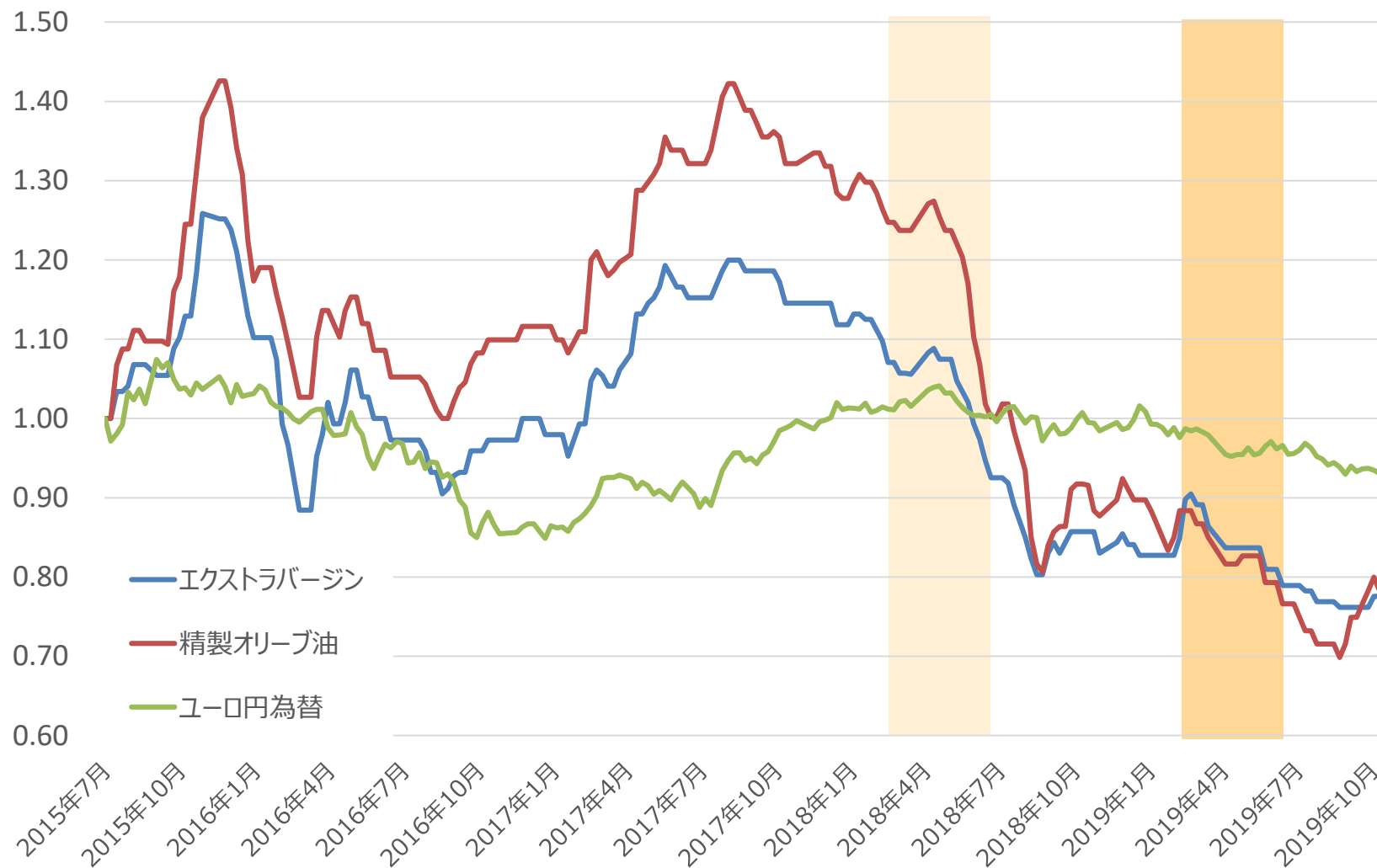
…前年同期 …当期



オリーブ、為替(ユーロ)の相場動向

* 原料調達状況に近づけるため、相場データを3ヶ月ずらして表示(2015年4月を1とする)

…前年同期 …当期





本資料取扱上の注意

- 本資料の金額は、四捨五入で表示しています。
- 本資料記載の内容は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものです。実際の業績は、さまざまな要因により本資料の予想とは異なる結果となる可能性がありますことをご承知おきください。